國學院大學学術情報リポジトリ

出版物紹介

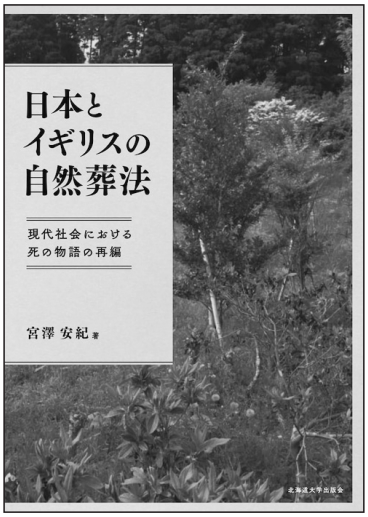
メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2025-04-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002001573

出版物紹介

宮澤安紀『日本とイギリスの自然葬法―現代社会における死の物語の再編―』

（北海道大学出版会、2024年４月）

内容紹介……



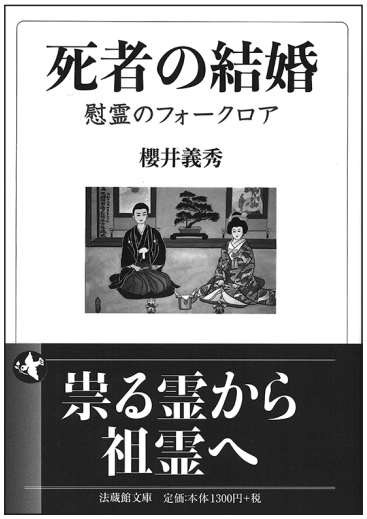
かつて宗教が提供し、共有されてきた生と死の物語が失われた現代社会において、我々はどのように死や死者と向き合うことができるのか。本書は、日本とイギリスにおける「自然葬法」に着目し、この新たな葬法が広く受け入れられている背景や具体的な実践の様相を、現地調査にもとづいて明らかにしている。

全７章から成る本書では、両国における葬送の近代化のプロセスや自然葬法ないし樹木葬の成立と展開を踏まえた上で、新しい葬法を選択する人々がいかに死の意味付けを再編しようとしているのか、比較分析がなされる。近代化や個人化というグローバルな現象の中で展開する自然葬法を、文化的背景が異なる日英の比較から考察することで、両者の共通点や差異が浮き彫りにされる。

櫻井義秀『死者の結婚 慰霊のフォークロア』

（法藏館、2024年９月）

内容紹介……



本書は、2010年に北海道大学出版会より刊行された『死者の結婚―祖先崇拝とシャーマニズム』を改題し、補論「人口減少社会の希望としての結婚」を追加した文庫版である。また、「文庫版へのまえがき」では死者の結婚に関する最新の研究動向もフォローしたうえで、改めて本書の意義が説明されている。

本書が取り上げるのは、東アジアやアフリカに見られる死者の結婚（冥婚）習俗である。具体的には、山形のムサカリ絵馬奉納、青森の花嫁人形奉納、沖縄のグソー・ヌ・ニービチ（後生の結婚）を取りあげ、東アジアやアフリカのなかで、祖先崇拝とシャーマニズムの関係性、ひいては社会構造のうちにおける働きがどう異なるのかを論じている。それにより、私たち生者の結婚も問い返されることとなろう。

齋藤公太『日英対訳で読みひらく 新しい日本文化史』

（神戸大学出版会、2024年３月）

内容紹介

本書は、日英対訳で書かれた日本文化史の入門書である。コロナ禍の中、著者が前任校の神戸大学にて開講した留学生を主な対象とする授業にもとづいており、多様なバックグラウンドを持つ人のみならず、日本人が英語で日本文化を説明する際にも役立つ内容となっている。

一般的な日本史の教科書において、文化史は各時代の隅に断片化されがちだが、著者は全15章にわたり、宗教・思想・政治・文学・美術・映画・アニメといった様々な方面に眼を配りつつ、一貫した通史を構成している。「日本」の非自明性に注意を促すとともに、世間に流布する通俗的なイメージを改めるべく最新の研究成果を反映した点も重要だ。各章には、関連の写真やウェブサイトのQRコードが掲載されており、日本文化にアプローチしやすい工夫がなされている。

平藤喜久子『新版 日本の神様と楽しく生きる―春夏秋冬を味わい、縁起良く暮らす―』

（笠間書院、2024年５月）

内容紹介

本書は、2016年に東邦出版より刊行された『日本の神様と楽しく生きる―日々ご利益とともに―』を再編集し、新たな項目を追加した新版である。「学問の神様」や「開運の神様」、「疫病除けの神様」など、普段私たちの身近にいる様々な神様のうち、各季節の行事や風物詩にまつわる神様を神話の解説とともに分かりやすく紹介している。カラフルなイラストつきで、神仏や神社、『古事記』『日本書紀』にも触れたコラム「神様のはなし」も挿入されている。

今回新たに追加された項目は、「知恵の神様」「赤ちゃんの神様」「旅行の神様」「塩の神様」「芸能の神様」「きょうだいの神様」「葬儀の神様」などである。巻末には、神仏名・神社名から引ける索引や神様の系譜図もついており、神様を起点に季節の行事・風習について知識を深めることもできる。